

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 コスモス 組	6 月 24 日 (火)	佐々木幸子

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～光～ 光であそぼう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
光という言葉にはなじみがない年齢だが、スマートフォン、電動自転車など日常よく見かけるものはよく知っていて「まぶしい」「ぴかっとする」などの言葉で表現している。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
13:00～13:10	・光っているものできれいなものって何だろうと問いかけて、子どもたちの経験を引き出していく。	【環境設定】 ・ 影遊びの時の環境設定にして、暗転して光を見えやすい様にする。 ・ わかりやすいイラストや写真を選定する。 【準備物】 ・ 懐中電灯 ・ マーカー ・ 鏡 ・ 透明のシート ■ 参考資料 ・ ステンドガラスの写真 【事前準備】 ・ 予めいくつかの写真を準備しておく、キラキラしているようなものを選び。
13:10～13:40	・ステンドガラスのような光を浴びて混色がかんじられたり、透明なものに色を付けるとどうなるかを想像できるように言葉をかけ、自分の作ってみたい光の作品づくりをする。 ・なかなか取り組みめないときには、様々な写真から好きなものを選んでよいとし、自分でどんどん進められる子は興味のままに作品を作れるようにする。	
13:40～13:55	・友達に自分の作品を見せ、感想を言ってもらおう。	
● 実施報告		
探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり	
・影遊びは何度も経験しているため、今回はステンドガラスの作品づくりにした。 ・子どもたちが取り組みやすいように、動物や果物など身近に感じられるものでステンドガラスになっている写真を多く用意したことで、これやってみたいという気持ちを引き出すことに繋がったと思う。	・「ワア、こんなの作るの?」「私はこうしたい」「やっつのいい?」とどんどん進められる子が多い中、「どうしたらいいですか?」と難しさを感じる子どももいた。	
● 振り返り		
保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容	
・普段、絵が得意な子供でなくても、マーカーのいろいろな色に興味を持って使いたい気持ちから意欲に変わっていく様子が見られた。 ・とても細かく色分けをしたことで、隣り合う色を変えて塗っていくことが大変だと保育者が感じて子どもたちは最後まで取り組む姿があった。 ・発表するときはそのタイトルを考えてもらったが、見本を見て描いていても最後にはその子供の個性のある作品になっていて、子どもの方から「電気にあてたらこんな色になった」「きれい」「ほくと〇〇ちゃんの合体させたらどんな色に見えるの?」などたくさん興味湧いていた。	・「難しい…」という子供でも保育者の励ましと周囲の子どもの作品を見て、自分でやってみようと思え立ち、取り組み、最後まで完成できたことは自信につながったと思う。 ・子どもたちから「合体させたら何色になった」とか2枚、3枚を重ねて光に透かし見て喜んだり感想を自分の言葉で表現で来ていて、発見や達成感があったのではと感じる。	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 コスモス 組	8 月 20 日 (水)	佐々木幸子

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~野菜~ 野菜はどこにできるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
給食の際に野菜が苦手で残してしまう子が多い。野菜は苦手だが、特定の野菜なら食べられる子もいる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・動画 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・野菜カード
13:00~13:10	今日の給食でどんな野菜が出たのか考える。	
13:10~13:20	絵本を見て、つとの中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知る。	
13:20~13:40	・野菜カードを見て、土の上と土の中、どちらで育つ野菜なのか考える。	
13:40~13:50	一緒に図鑑を見ながら、どこにできるかを確認する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・給食にでてきた野菜を挙げてもらってから、野菜に関する絵本を読み、野菜には土の中に育つものと土の上に育つものがあることを知る。そのうえで、今日の給食に出てきた野菜がどちらで育つものなのか考える。</p> <p>・野菜カードを使い、その他の野菜についても考え予想して、最後には図鑑を見てどこで育つものなのか確認する。</p>	<p>・「どんな野菜が出てきたのかな」と問いかけると、自分たちが食べたものを思い出しながら話す姿があった。野菜が土の中に育つもの、上に育つもの様々であることは知ってはいたが、いざ絵本で具体的に知ることで「そうなんだ」と驚く様子があった。</p> <p>・すぐに答えは出さずに、少しでも子どもたちが考えられるようにする。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・野菜が苦手な子供が多かったので、活動にそのような影響が出るかと心配な気持ちがあったものの取り組みだったが、普段給食にでないような野菜の名前を知っていたり、意欲的に考えたり、興味を持って参加する姿が見られた。また身近な題材であり、意見が出しやすく参加しやすかったように思う。</p>	<p>・給食では食べていなくても家庭で食べていたり、外食で知っているような野菜もあつたり、経験からの意見が出てきたところはよかったと思う。秋の大根堀では実際の畑での収穫が体験でき、残さずに食べたり家庭でレシピを考えたりすることで、今回の興味がさらに深まっていけるように収穫の準備を進められるように関連付けられるとよいと思う。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 コスモス 組	10 月 14 日 (火)	佐々木幸子

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色を作ってみよう～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>・絵具を使うことに慣れているが個人で使用するよりも2人組で同じ絵具を使うことが多くあり、友達の作った色が自分の好みの色とは限らないが、あまりそこに執着せずであれば何でもという気持ちも見られるが活動自体は楽しく取り組んでいる。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
13:00～13:05	<p>・「洋服の色を聞いてみたいと思います」と伝え、自分の洋服の色や友達の洋服の色を自分の知っている言葉で発表する。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人にパレットや水差しを準備して、じっくり取り組めるように環境を整える。 ・子どもから出た発言はほかの意見も聞きあえるような環境にする。
13:05～13:10	<p>・「自分の好きな色を自分だけで作ってみたら、どんな色にしたい？」と問いかける。何ができればできそうかなと聞いてみる。</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵具 ・パレット ・水差し ・画用紙 ・カップ ・ラップ ・名前シール ・クレヨン
13:10～13:30	<p>・「もともと色が混じってできたものはもう完成しているのだとしたら、完成していない色を使って、自分だけの色を作ってみようか」と問いかける。</p>	<p>【事前の準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画用紙を切っておく。
13:30～13:45	<p>・「完成した色にオリジナルの名前を付けて発表してみようか」と自分の作品にしっかり向き合えるようにし、また友達の混色にも興味を寄せる。</p>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・絵具を使って混色をする内容はPREPでも繰り返し経験していたがこれまでは一人だけで絵具を使うことが少なかったため、色を塗るのではなく作ることに注目できるように話をするようにした。 ・できた色に愛着をもてるように命名することを伝えて、わくわくした気持ちと作品に責任を持てるような働きかけをしてみる。 ・最後に自分の作品を見せて作品名を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵具の使い方を説明したり、混ぜた色を確認できるようにしたが、イメージを持ちやすいように4つ足動物に色を塗ってみようともちかけた。自分でイメージした動物もかなり個性的であったが、一つ色ができるたびに少しずつぬって、「うん、この色いいね」など、確かめるような発言も多くあった。「私、この色に決めよう」といくつかの混色の中から決めており、納得のいく色を作ることが出来ていた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・4つ足動物に色を付けることが塗り絵をしている感覚があったのか「体はこの色がいいんだけど、足はこっちがいいな」「こんな色もできたから塗ってみたらすごい色」など、パレットだけでなく画用紙に色を付けてみることで、できた色が消えずに残り、納得しながら進めていく様子があった。 ・色の命名は個性的だったが、「この世に一つの自分だけの色」と話したことが分かり。「リズム色」「シャネル色」などわくわくするような色の名前がでてきたため、次回、染め物にしてみることにみんなで決め、発展していった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に作った色を画用紙に塗って確認しながら進められたことで、色の混ぜ具合で様々な変化できる面白さを感じながら活動できたと思う。個性的な命名は聞いていても楽しく、自分だけの色を気に入っていて、保護者のお迎え時に伝える様子もあった。作った色を玄関にしばらくおいておいたことで、保護者も一緒に楽しむ様子があり、また命名の個性的な部分に驚き、会話の弾む様子がうかがえてよかったと思った。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 コスモス 組	1 月 14 日 (水)	佐々木幸子

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～ お店屋さんごっこで交換を体験		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
・現金での買い物に親しみのない子供が増えたが、お年玉をもらったことでお金(現金)を見る機会が増えた時期でイメージしやすい時期だと考えられる。・お店屋さんごっこは何度も行っているがお金に注目することはない。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:50～10:00	・「お金って知ってる?」「どんなときに使うか?」を問いかける。	【環境設定】 ・自由に発言できるようにするが、友達の経験などをしっかり聞いて自分の経験を結び付けられるような意見を拾っていく。 ・おはじきを数えた経験や合わせていくつという数にも注目して、持っていくお金をみんなで決めて、実際のお金で買い物体験を楽しめるようにする。 【活動使用教材】 ・ホワイトボード ・ボードマーカー ・模擬のお金 ・画用紙 【事前準備】 ・商店街の花屋に挨拶に行く。 ・花の値段と大体の金額を検討する。
10:00～10:50	・「さくら会の花壇に花を買いに行くお手伝いを頼まれているのよ」とお金や買い物物が結びつくように話す。 ・実際のお金を持って商店街に買いものに行く。 ・物には値段があることや、表記(金額)に気づけるように、また全員が帰るように簡単な足し算の経験を活かせるように、話を進める。 ・花屋に行って花を選ぶ。お金を払う。 ・さくら会の花壇に花を植えに行く。	
10:50～11:00	・お釣りを持ち帰り、お金を使ったらなくなることを実際に体験する。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・お金を実際に使う場面を見ることが少なく、イメージが付きにくいいため、可能な限り、実体験と結び付けられるようにする。</p> <p>・買って終わりではなく、継続していけるようにしていくことで、経験が残るように工夫する。</p>	<p>・お金のイメージもなく、漠然と「自分には7000円ある」「お年玉でもらった」などお金でイメージできることが少なかった。</p> <p>・実際に買い物にでることで、お金を使ってみることで、1鉢ずつ値段が違うことなどに気づけるようにしたい。</p> <p>・実際のお店屋さんとのやり取りから、物売る方を知るきっかけになるようにしたいと考えられるように振り返る時間をしっかり持つ。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・現在は、お金を使う経験が家庭ではないことがよくわかった。子どもたちからも経験が語られることはほぼなかったが「お使いにいく」という言葉から花屋に行くこと、その花をさくら会の花壇に植えに行くことを楽しみにしていた。お金の使い方が誰かのために喜ばれているという実感が残った。</p>	<p>・子どもたちが普段よく行く花屋で買い物ができたことで、経験を伝える姿もあったし、保護者に説明するときも達成感が伝わっていると感じた。</p> <p>・一人一鉢、選んで一人ずつ会計ができたことは本当に良かったと感じた。</p>